令和６年度動物由来感染症予防体制整備事業報告書（概要版）

１　事業の目的

岐阜県内で飼育されているイヌ・ネコの病原体保有状況や発生状況を調査・分析し、動物由来感染症に関する正しい知識を普及することにより、動物由来感染症の予防及び発生時の適切かつ迅速な対応を促進する。

２　病原体保有状況調査対象感染症

調査対象感染症	人での感染症の症状・特徴等	調査対象に選んだ理由
トキソプラズマ症	トキソプラズマのシストを含む食肉を加熱不十分での喫食や、ネコの糞便に含まれるオーシストの経口的に摂取で感染する。免疫不全者には重篤な症状を引き起こし、また、妊娠中の女性が初感染すると、胎児に重篤な症状をもたらす先天性トキソプラズマ症の原因となる。	平成 26 年度より調査を行っており、抗体陽性のイヌ・ネコが確認されている。陽性率の変動を確認するため、経年的検査を行う必要がある。
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）	ウイルスを保有しているマダニに刺咬されることで感染する。主な症状は、発熱、消化器症状（食欲低下、嘔吐、下痢）等が認められ、重症化すると死亡することがある。	県内では人の患者は発生していないが、マダニからウイルス遺伝子が、狩猟犬の血清から抗体が検出されている。 平成 26 年度より調査を行っており、引き続き調査する必要がある。
日本紅斑熱	病原体を保有するマダニに刺咬されることで感染する。主な症状は、頭痛、発熱、倦怠感で、適切な治療により回復するが、治療が遅れると重症化することがある。	令和３年度に県内で初めて患者が確認された。 平成 26 年度より調査を行っており、令和４年度、ネコに付着したマダニ１検体から検出されており、引き続き調査する必要がある。

３　病原体保有状況調査結果

調査対象感染症	対象動物	検査件数	材料	検査方法	検査結果		備考
					陽性（陽性率）	陰性	
トキソプラズマ症	イヌ	52	血清	抗体保有の確認	11(21.2%)	32	９件　判定不能
	ネコ	38			9(23.7%)	28	１件　判定不能
SFTS	イヌ	197	血清	抗体保有の確認	0	196	１件　判定不能
	ネコ	40			0	40	
	イヌ	38	マダニ	ＳＦＴＳウイルス遺伝子の検出（PCR）	0	38	
	ネコ	18			0	18	
SFTS（リアルタイム検査）	ネコ	1	血清	ＳＦＴＳウイルス遺伝子の検出（PCR）	0	1	
日本紅斑熱	イヌ	38	マダニ	日本紅斑熱リケッチア遺伝子の検出（PCR）	0	38	
	ネコ	18			0	18	

４　サーベイランス調査対象感染症

調査対象 感染症	感染症の症状・特徴等	調査対象に選んだ理由
ノミ感染症	吸血時の刺激とその後の痛み・痒み等が発生する。また、ノミは種々の動物由来感染症を媒介する。	「動物由来感染症ハンドブック（厚生労働省）」を参考に、ペットでの常在性、人への重要度、動物病院における遭遇頻度、診断方法から、身近に発生している疾病を選定した。
回虫症	感染したイヌ・ネコが糞便と共に排泄した回虫卵を経口摂取することにより人に感染する。移行した場所により症状が異なり、視力障害、肝腫大、肺炎症状等を呈する。	
皮膚糸状菌症	感染したイヌ・ネコ等のペット動物との接触により人に感染する。脱毛や痒み、皮疹、膿疱等皮膚疾患を呈する。	
瓜実条虫症	条虫の幼虫を持つノミの成虫の誤飲により感染する。食欲不振、軽度の腹痛、下痢等の症状を呈する。	

５　サーベイランス調査結果

調査項目	県内動物病院を受診したイヌ、ネコにおける 調査対象感染症の報告件数	考察
ノミ感染症	398 件	夏期にかけて発生が多く、季節変動があった。
回虫症	124 件	イヌよりネコでの発生が多かった。
皮膚糸状菌症	58 件	7 月と 1 月で発生が多かった。
瓜実条虫症	41 件	発生件数は少ないが、ノミ感染症と同様にネコでの発生が多かった。

（令和 7 年 3 月）